

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2016 年 4-6 月期〕

公益社団法人全国産業廃棄物連合会

〔調査結果の概要〕

景況判断 DI は▲32 となり、前期と同水準となり、足踏み状態で推移している。

2016 年 4-6 月期の景況判断を「悪化」とした企業は 37%で前回調査（2016 年 1-3 月期 35%）より 2 ポイント悪化、「好転」とした企業は 5%で前回調査（3%）より 2 ポイント改善した。景況判断 DI は▲32 となり、前回調査と同水準となった。

以下、その他業況感 DI の内訳

2016 年 1-3 月期に対して、

- ・売上高 DI は▲16 で、4 ポイント改善
 - ・処理量 DI は▲14 で、6 ポイント改善
 - ・契約単価 DI は▲3 で、4 ポイント改善
 - ・営業利益 DI は▲17 で、5 ポイント改善
 - ・資金繰り DI は▲6 で、2 ポイント悪化
 - ・借入難易度 DI は 3 で、2 ポイント悪化
 - ・設備投資 DI は▲8 で、2 ポイント悪化
 - ・従業員数 DI は 6 で、8 ポイント改善
- 今後の景況感 DI の見通しは、景況判断 DI で▲29 となり、3 ポイント改善する見込みとなっている。
 - 売上高の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 1.1%増となった。
 - 処理量の動向については、前年同期比（3 ヶ月平均）で 2.4%減となった。
 - 経常利益率については、平均値が 4.65%（前回調査 4.80%）となった。回答割合は「5%未満」40.7%、「5-10%未満」13.2%、「10%以上」14.3%、「把握なし」31.8%となった。
 - 経営上の問題点としては、「需要の停滞」22.9%（前回 23.5%）、「同業者相互の価格競争の激化」16.3%（前回 18.0%）と引き続き上位となった。「人件費以外の費用増加」が前回の 4 位から 3 位に上昇している。

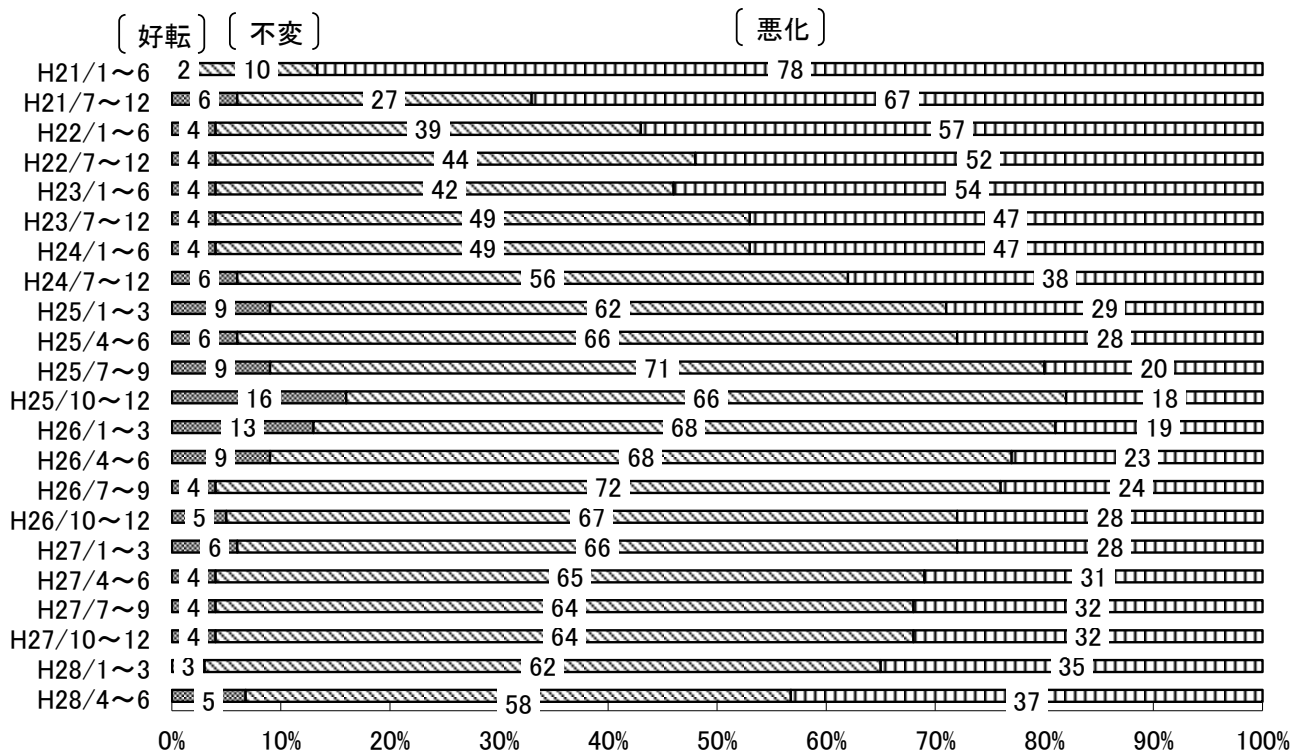
※DI とは、ディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で、「好転」・「増加」したなどとする企業割合から、「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

※本調査は、2009 年から半期周期の調査として実施していたが、2013 年からは四半期周期の調査に変更している。

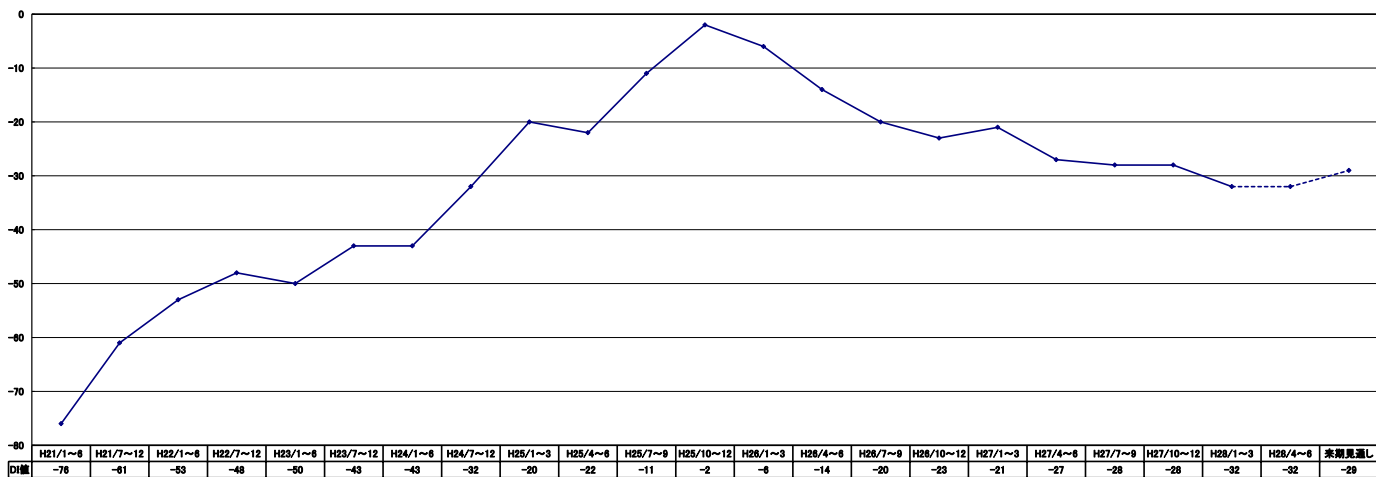
〔調査の要領〕

- 調査の対象：2008 年 10-12 月期で回答のあった全国の協会会員企業、全国産業廃棄物連合会理事及び部会運営委員会委員
- 調査の方法：郵送によるアンケート
- 調査期間：平成 28 年 7 月 11 日～8 月 31 日
- 回答企業数：384 社

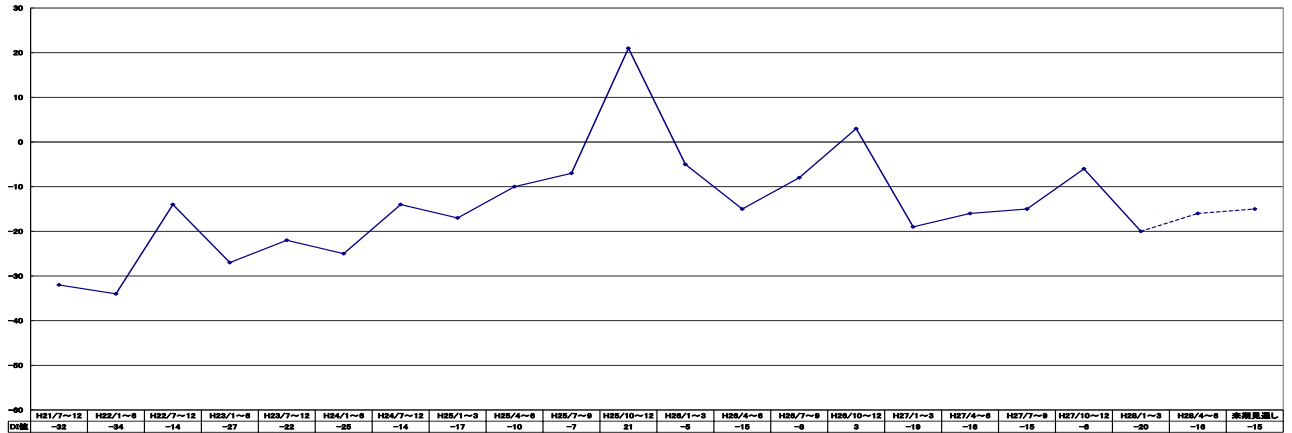
景況感



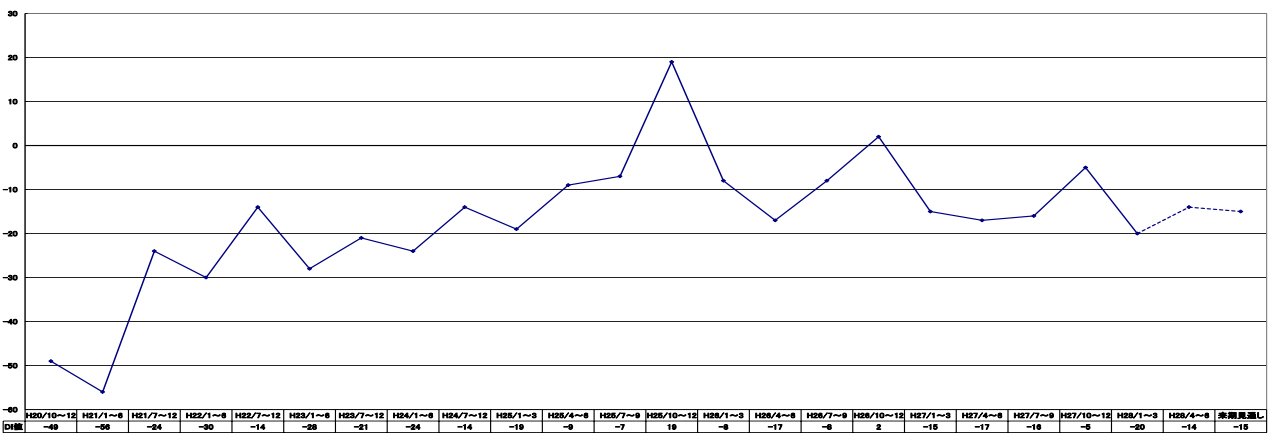
景況判断DI



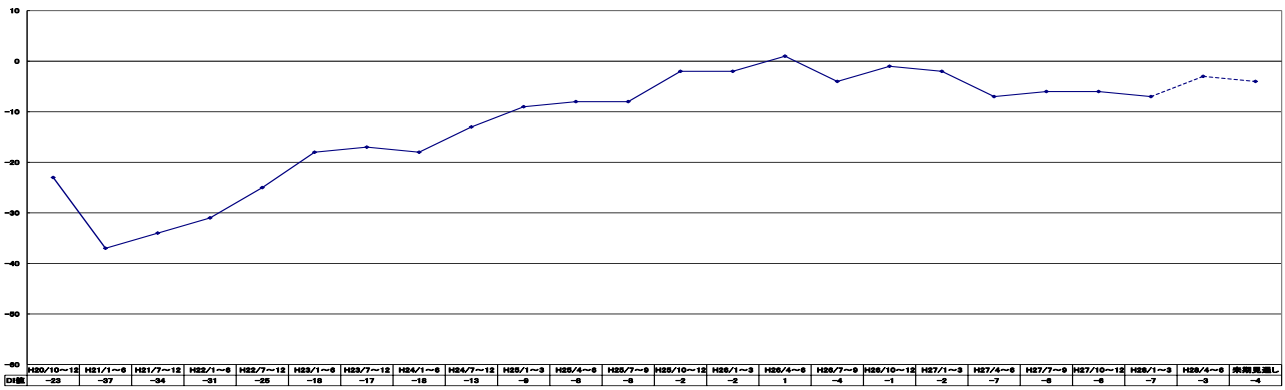
売上高DI



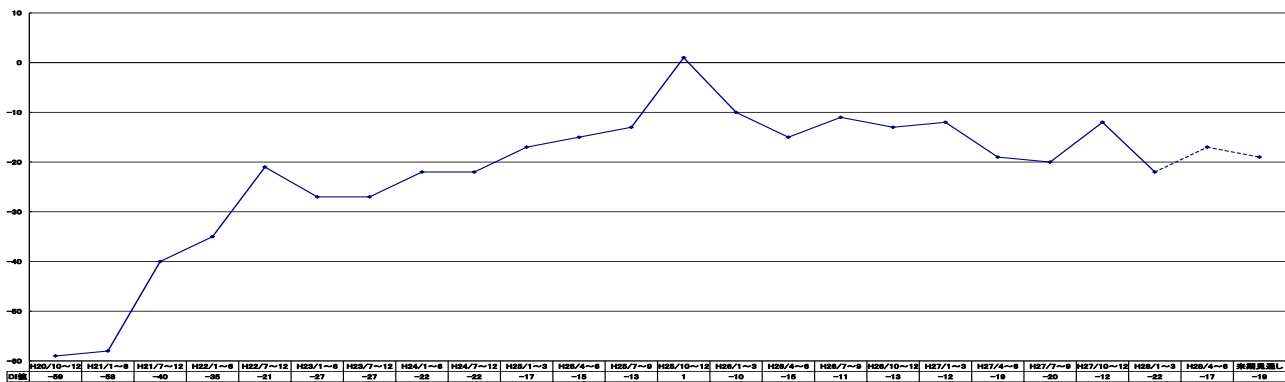
処理量DI



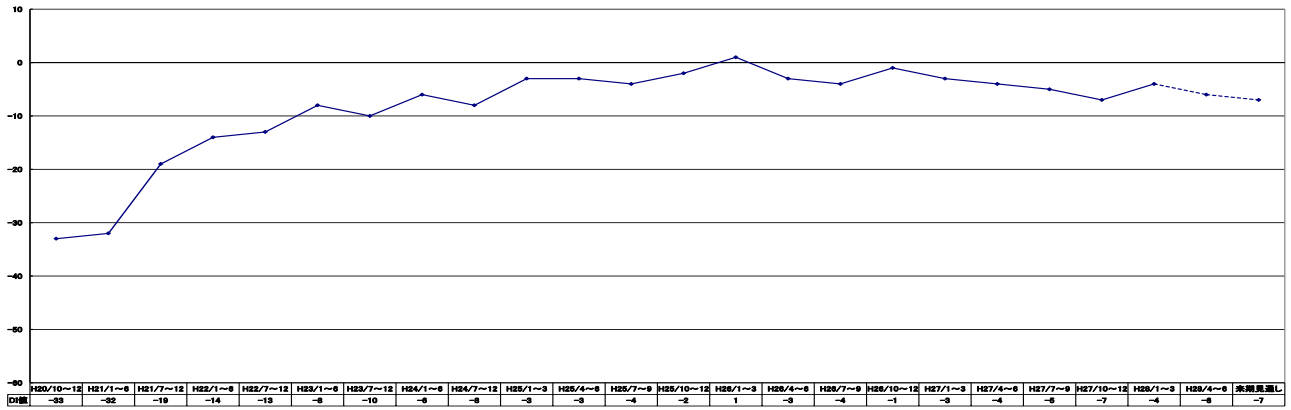
契約単価DI



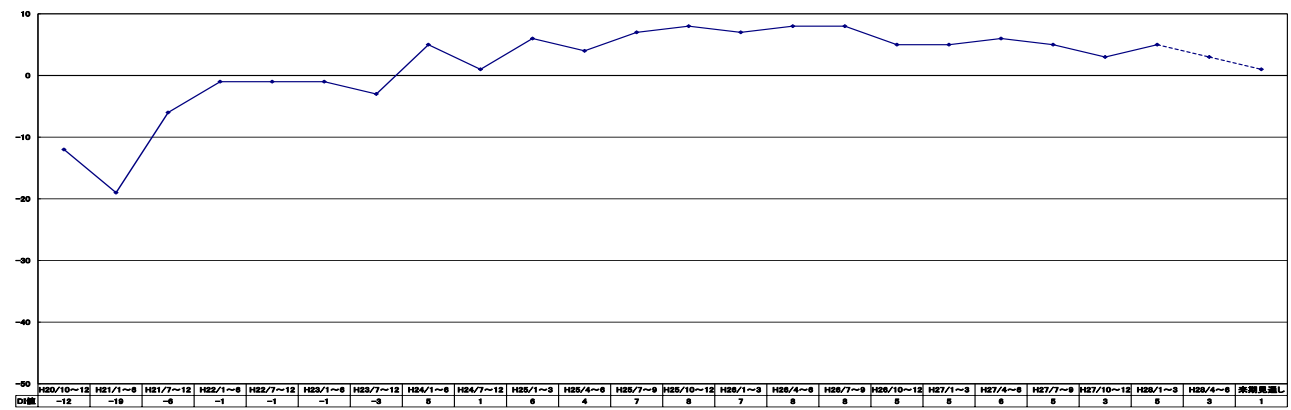
営業利益DI



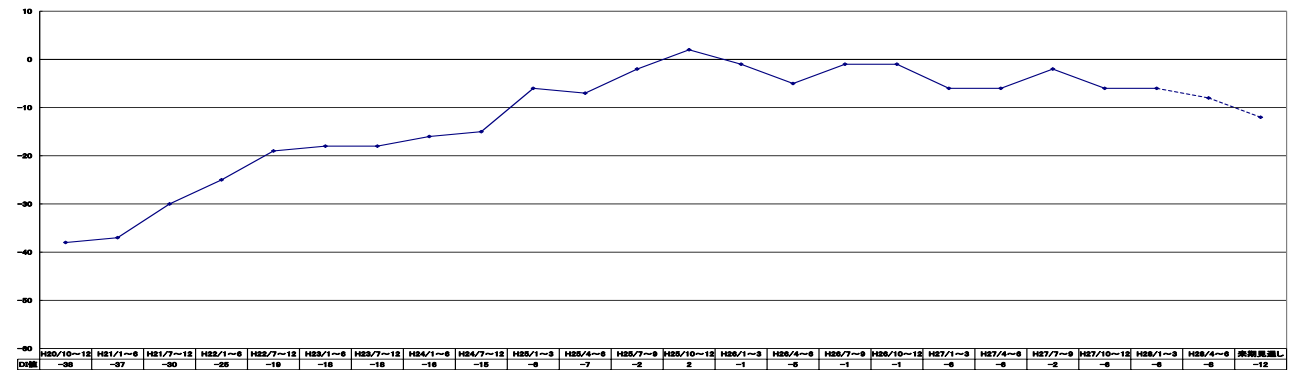
資金繰りDI



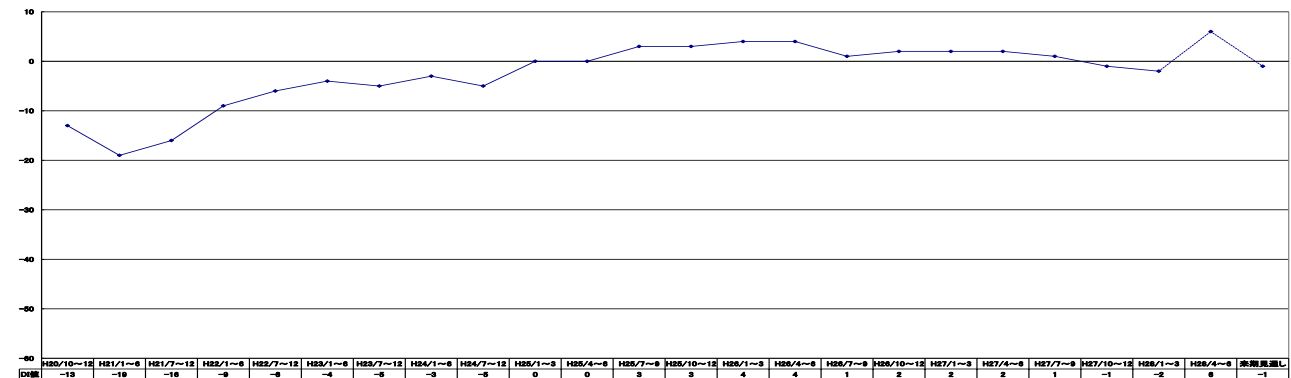
借入難易度DI



設備投資DI

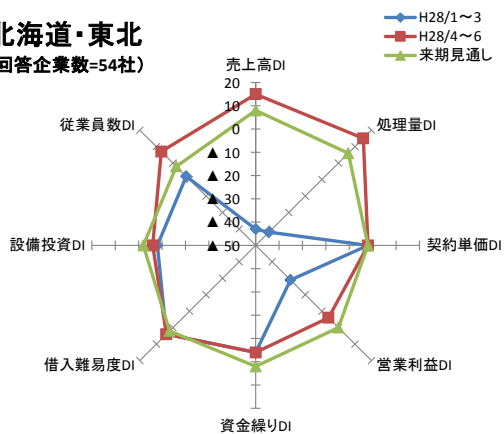


従業員数DI

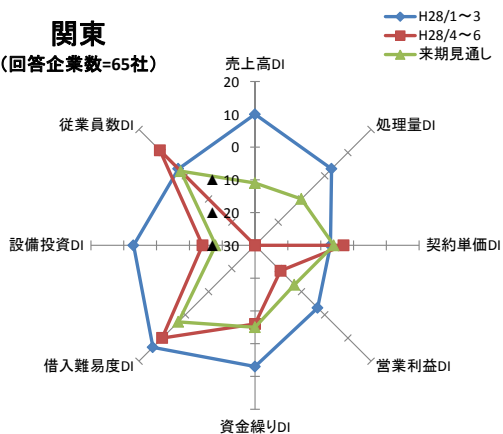


【地域別レーダーチャート】

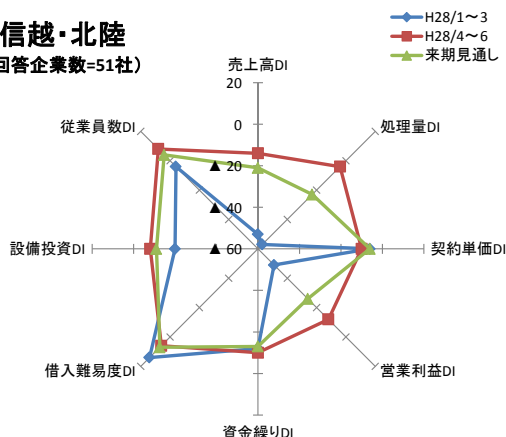
北海道・東北 (回答企業数=54社)



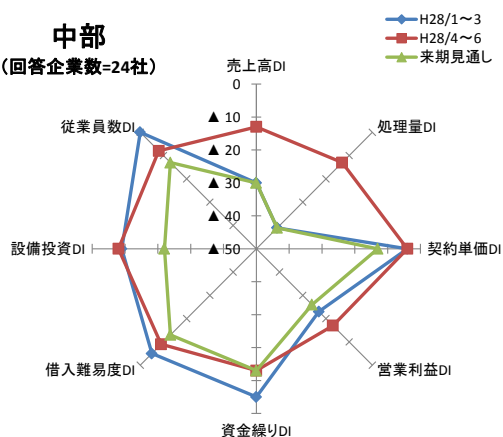
関東 (回答企業数=65社)



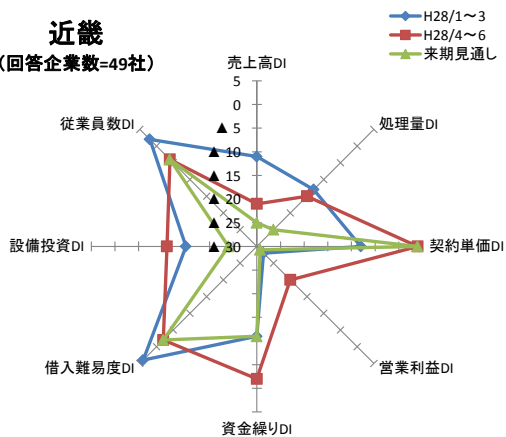
信越・北陸 (回答企業数=51社)



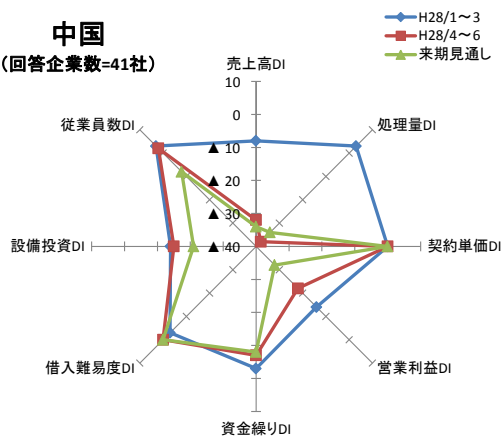
中部 (回答企業数=24社)



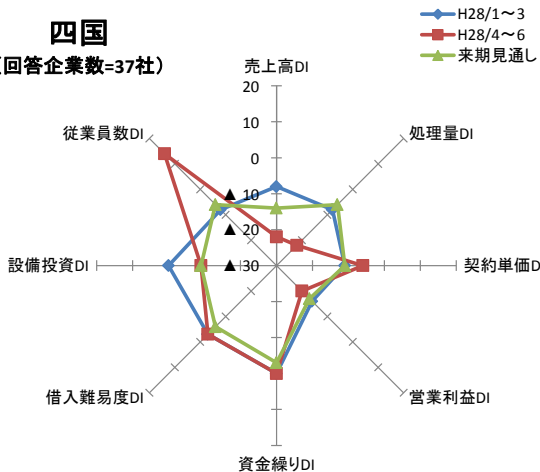
近畿 (回答企業数=49社)



中国 (回答企業数=41社)



四国 (回答企業数=37社)



九州・沖縄 (回答企業数=63社)

